



環境大臣会合に向けた国際市民フォーラム

「バイオ燃料・森林減少防止は気候変動対策となるか？～先進国の役割と責任」

フォーラム 森林減少による炭素排出と気候変動

【日時】

2008年5月22日(木) 13:00～18:00

【会場】

JICA 地球ひろば 渋谷区広尾

【主催】

国際環境 NGO FoE Japan、(財)地球・人間環境フォーラム

【後援】

林野庁、外務省、環境省、JICA、
駐日英国大使館、駐日欧州委員会代表部

【協力】

AM-NET、ウータン・森と生活を考える会、気候ネットワーク、
グリーンコンシューマー東京ネット、
サステナビリティ・コミュニケーション・ネットワーク(NSC)、
サステナビリティ日本フォーラム、社会的責任投資フォーラム(SIF-Japan)、
WWF Japan、地球環境戦略研究機関(IGES)、
日本インドネシア NGO ネットワーク(JANNI)、日本環境ジャーナリストの会、
社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会(NACS)、
熱帯林行動ネットワーク(JATAN)、
レインフォレスト・アクション・ネットワーク(RAN)

【助成】
独立行政法人 環境再生保全機構 地球環境基金

プログラム

(進行:坂本有希/地球・人間環境フォーラム)

時間	タイトル	発表者
13:00	開会挨拶	岡崎 時春
イントロダクション 「森林減少の抑止はまったなし！」		
13:05-13:30	森林減少対策に必要とされる視点 (質疑5分)	満田夏花 (地球・人間環境フォーラム)
パート1 「森林減少、要因を取り除くのは需要国次第」		
13:35-14:05	積み重なる失敗・災害:インドネシアの森林 の現状の紹介	Rully Syumanda 氏 (WALHI)
14:10-14:30	地球炭素銀行への強盗:南東オーストラリア における森林伐採による気候変動への影響	Alec Marr 氏 (Wilderness Society)
14:30-14:55	質疑(15分)、休憩(10分)	
14:55-15:15	REDD 導入による村落共同体への影響	百村帝彦 氏 (IGES)
15:20-15:40	森林に関わるアクターから見た 森林減少の意味	松本 悟 氏 (メコン・ウォッチ)
15:40-16:00	質疑(10分)、休憩(10分)	
パート2 「では、どうすればよいか？～G8の責務と役割」		
16:00-16:25	G8は森林と気候危機の真の解決方法に 目を向けるべき	Saskia Ozinga 氏 (FERN)
16:25-17:45	パネルディスカッション	コーディネーター:中澤健一
17:45-17:55	市民社会から G8 環境大臣へメッセージ	岡崎時春

報告者プロフィール

満田夏花(みつたかな)

(財)地球・人間環境フォーラム 主任研究員
開発途上国における企業の社会的責任、国際金融機関の環境社会配慮、原材料調達のグリーン化支援の調査に従事。調査研究に根ざした政策提言活動を行うことを目指す。2001～2004年まで国際協力銀行環境審査室に出向。現在、明治学院大学非常勤講師を兼任。



ルーリー・シュマンダ/Rully Syumanda 氏

WALHI (Friend of the Earth Indonesia)
フィンランド大学大学院修了(建築学、景観学修士)。建築会社勤務の後、1996年より環境保全活動を開始。WWF や WALHI 地域支局を経て、2005年より本部所属。最新の著作は「Be Wise With The Paper」(2007)。



アレック・マール/Alec Marr 氏

ウィルダネス・ソサエティ/Wilderness Society 代表
環境保全活動家として20年以上のキャリアを持つ。主に国内森林保全、南極の環境保全などを訴えるロビー活動家として活躍し、1998年より、オーストラリアの環境保全 NGO、The Wilderness Society の国内キャンペーンディレクター、現在同団体の代表も勤めている。



ワイルドマガジン誌の「今年環境活動家賞」を2001年に受賞。

百村帝彦(ひやくむらきみひこ) 氏

地球環境戦略研究機関(IGES)森林保全プロジェクト・サブマネージャー / 研究員
東京大学・大学院農学生命科学研究科より博士(農学)取得。
国際協力事業団派遣専門家(ラオス・農林省林野局勤務)を経て1998年より現職。東京大学・農学共同研究員



松本 悟 氏

特定非営利活動法人メコン・ウォッチ代表理事
シドニー大学大学院地球科学研究科修了(理学修士)。NHK記者や日本国際ボランティアセンター(JVC)ラオス事務所代表などを経て現職。開発に伴う環境・社会面での負の影響を回避・最小化するため、現地モニタリングや政策アドボカシーを行っている。森林分野での主な著作は、「水と森に支えられた生活と開発」佐藤寛ら編『シリーズ国際開発第3巻 生活と開発』(日本評論社 2005年)、「メコン河流域国の森林消失とその原因」井上真編『アジアにおける森林の消失と保全』(中央法規 2003年)など。



サスキア・オジンガ/Saskia Ozinga 氏

ファーン/FERN 共同創設者/キャンペーンコーディネーター
ユトレヒト大学生物学及び保健医療専攻で修士号を取得。同大学環境科学で教鞭をとった後、Friend of the Earth に参加。1995年3月にFERNを設立。Forest Movement Europe のファシリテーターをするとともに、EU の森林をめぐる動向のモニタリングを委託されている。現在、Forest Peoples Programme の理事役員、World Rainforest Movement 運営委員。著書も多数。最新の著書は「Provoking change- A toolkit for African NGOs.」(2006年共著)

